

## 1 都市の時代の行き詰まり

- 1) 新たな政策とシステムの必要性
- 2) 中央集権制の限界
- 3) 市民参加の要請

## 2 対応する発想とシステム

- 1) 国際社会 ————— 平和、核開発の廃止、地球環境、貧困、テロ、感染病
- 2) 中央政府 ————— 外交、通貨、ナショナルミニマム、保安
- 3) 連邦制 ————— 内政、地域調整
- 4) 「まちづくり」と市民政府 ————— 自治体の役割
- 5) N G O、企業の社会化 —————
- 6) 市民の自覚 ————— 「住民」から「市民」へ ————— 責任ある市民

## 3 「まちづくり」の発想

- 1) 官主導の欠点 ⇒ 市民の発想とヤル気、自治体の自覚、N G O
- 2) モノづくりの限界 ⇒ ソフト（暮らし、使い方、ルール、イベント）
- 3) 画一性の反省 ⇒ 個性、特性、歴史、文化
- 4) 量・効率への傾斜 ⇒ 質の認識（美、うるおい、楽しさ、アメニティ）
- 5) 单発事務・事業 ⇒ 総合的把握、プロデュース的経営
- 6) 固定マニュアル化 ⇒ 発見、創造
- 7) 身近なものの軽視 ⇒ 小さな“まち”的自覚
- 8) 理念だおれの克服 ⇒ 具体的な実践、

## 4 「まちづくり」の意味

市民が自分たちの”まち”をかけがえないと意識し、住み心地よく、住むに値するもにしてゆくために、市民と地域が主体性をもち、協働して”まち”をつくり、育て、維持してゆくすべての行動。

## 5 「まちづくり」の次元

- 1) 大きな「まちづくり」 ————— 自治体レベル、広域自治体レベル
- 2) 小さな身近な「まちづくり」 ————— 地区、近隣、向こう三軒
- 3) テーマ別の「まちづくり」 ————— 地域の実践、全国の共同、国際協調

## 6 「まちづくり」の実践

- 1) 価値の発見、認識、創造、導入、協働 ⇒ 実現
- 2) 住むに値する”まち” ⇒ 誇り、愛情
- 3) コミュニティと出会いの場 ⇒ 特定少数、不特定多数
- 4) 「まちづくり」は「ヒトづくり」 ⇒ 生涯学習
- 5) 「まちづくり」とココロ ⇒ 感性、感受性、ホスピタリティ、魂